

キーワード：（ 学校組織・指導体制の改善 ）

# 学力向上に向けた取組

函館市立大川中学校

## 1 課題

心を耕し、豊かな心を育む教育活動の工夫  
学ぶ意欲を高め、基礎・基本の確実な定着を目指す授業、教育課程の工夫

## 2 課題解決の具体策

ノーチャイムによる時間の自己管理や生徒の手による感動あふれる集会活動  
や学校行事の創造  
全員で取り組む道徳学習や性の学習を含めた体験的活動の充実  
全校で取り組む「朝読書」  
複数教員による数学の指導や放課後の個別指導  
教育課程編成の工夫による特色ある教育活動と各教科授業時数の確保

特色ある  
教育活動

## 3 取組の概要

～ について

本校の伝統であり、生徒の学ぶ意欲の伸張に大きく寄与している取組である。「タイム着席」や集会時の移動など自ら考え行動できるようになっている。一般的な副読本を使った道徳の時間以外にも外部からの講師を招いたり、性の学習でも「赤ちゃん抱っこ」や「思春期教室」など外部との交流を図りながら生徒の体験値がより高まるように工夫している。「朝読書」については実施3年目を迎え定着している。活字離れを防ぐだけでなく、落ち着いた学校生活の始まりによい影響が認められる。

について

本校にはT、T、加配1名、理数教育指導員1名（以下指導員）、特別支援員1名（以下支援員）が配置されている。数学の指導体制として通常のTT配置の他に指導員も配置し、1～3年の全時間について複数体制を敷いている。時には3名の指導者が配置されることもあり、一斉授業ではなかなか理解が進まない生徒に対しても対応できる。支援員は主として1学年に配置され、特別な支援を必要とする生徒に対応しているが、数学の授業では指導員、T2教員とともに学級全体に目を配っている。また、教員・指導員ともに意欲のある生徒には、放課後や長期休業中の補習や深化学習に取り組む等、個に対応しながら指導している。

について

「学びの習慣化」は急務であるが、それ以前に一つ一つの授業内容を確実に理解することなしに家庭における自主学習は進まないと考える。授業時間をしっかり確保すると同時に、前向きな生活態度を作り出す「心を耕す教育活動」を両立させなければならない。教育課程を見直し、標準時数+ を産み出すための計画的で弾力的な時数配分を行うため、年間の各週時間割について年度初めに確定させ見直しをもって時数調整している。また、実力テストの回数を増やし、定期テストとあわせてテストの間隔が開きすぎないように均等化した。

## 4 成果と課題

心を耕し意欲的に学ぶ態度を作る取組は確実に身を結び始め、落ち着きがある中にも活発な活動ぶりを見せる授業が多くなった。またテスト期間などは放課後に自ら教師をつかまえ質問したり、補習プリントをもらう生徒が増えている

「学びの習慣化」にむけて、各教科の授業と家庭学習の継続的な連携が必要であり、今後の課題である。